

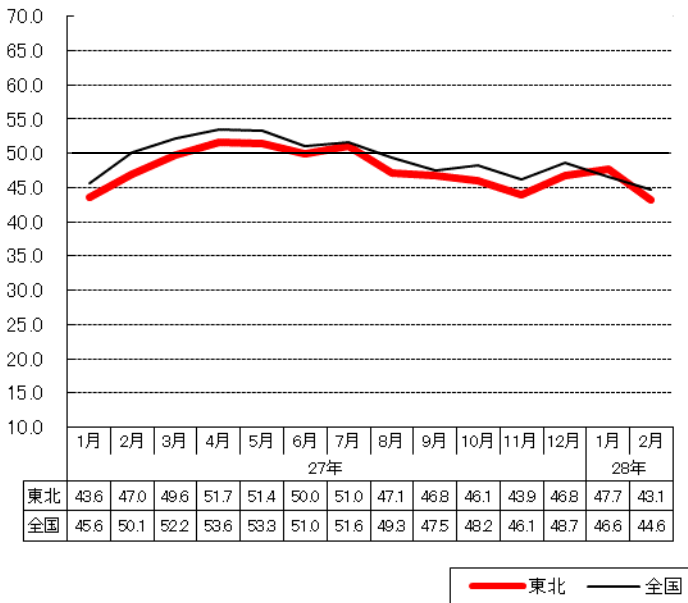
公益財団法人東北活性化研究センター
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 28 年 2 月東北分
(新潟を含む東北 7 県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：海輪 誠・東北電力(株)取締役会長）は、このほど「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 28 年 2 月東北分（新潟を含む東北 7 県）」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

1. 現状判断（3か月前との比較、方向性）

現状判断 DI は「43.1」と3か月ぶりに前月を下回った。前月と比較し▲4.6 ポイントと大幅に下回り、7か月連続で景気判断の基準となる 50 を下回った。

現状判断DIの推移



・家計動向…住関連専門店、観光型ホテル、住宅販売会社等で DI が前月を上回ったが、タクシー運転手、その他専門店、高級レストラン、通信会社社員等の業種で DI が前月を下回った。DI は「41.7」(▲5.6)と 3 か月ぶりに前月を下回り、基準値 50 を 9 か月連続で下回った。

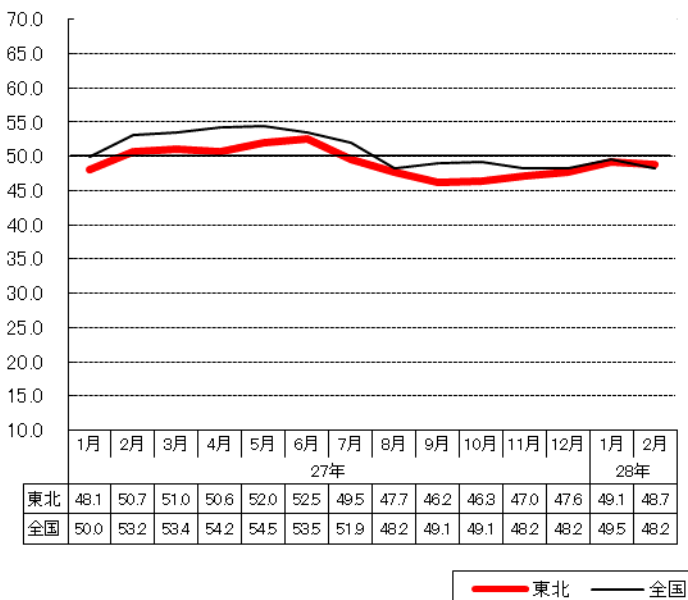
・企業動向…農林水産業従事者、電気機械器具製造業、金融業等で DI が前月を上回ったが、広告代理店、司法書士・経営コンサルタント、家具及び木材木製品製造業等の業種で DI が前月を下回った。DI は「46.2」(▲0.8)と 3 か月連続で前月を下回り、基準値 50 を 7 か月連続で下回った。

・雇用動向…DI は「46.6」(▲4.5)となり、2 か月連続で前月を下回り、基準値 50 を 3 か月ぶりに下回った。

2. 先行き判断（2～3か月先の見通し、方向性）

先行き判断 DI は「48.7」と5か月ぶりに前月を下回った。前月と比較し▲0.4 ポイントとわずかに下回り、8か月連続で景気判断の基準となる 50 を下回った。

先行き判断DIの推移



・家計動向…住関連専門店、高級レストラン、一般レストラン等で DI が前月を下回ったが、観光型ホテル、商店街代表者、タクシー運転手等の業種で DI が前月を上回った。DI は「49.1」(+0.3)と 3 か月連続で前月を上回ったが、基準値 50 を 8 か月連続で下回った。

・企業動向…農林水産業従業者、広告代理店、建設業等の業種で DI が前月を上回ったが、それ以外の業種では前月から DI が横ばいもしくは下回った。DI は「44.9」(▲4.5)と 2 か月ぶりに前月を下回り、基準値 50 を 3 か月連続で下回った。

・雇用動向…DI は「53.4」(+2.3)と、2 か月ぶりに前月を上回り、基準値 50 を 4 か月連続で上回った。

<参 考>

■D I の推移※

(1) 現状判断 (方向性) D I

	27年												28年	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
東北現状	43.6	47.0	49.6	51.7	51.4	50.0	51.0	47.1	46.8	46.1	43.9	46.8	47.7	43.1
家計動向関連	42.5	46.0	49.1	51.6	53.0	48.6	48.7	46.2	45.6	44.9	42.3	45.7	47.3	41.7
企業動向関連	44.6	50.0	50.6	53.0	46.4	55.4	56.1	47.5	48.7	47.5	47.6	47.4	47.0	46.2
雇用関連(参考)	48.9	47.7	51.1	50.0	51.1	48.9	56.0	52.3	51.1	51.1	47.7	52.3	51.1	46.6

(2) 先行き判断D I

	27年												28年	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
東北先行き	48.1	50.7	51.0	50.6	52.0	52.5	49.5	47.7	46.2	46.3	47.0	47.6	49.1	48.7
家計動向関連	47.3	51.0	51.2	50.7	52.8	51.0	49.3	46.9	45.0	45.9	45.3	46.6	48.8	49.1
企業動向関連	51.8	50.0	49.4	51.2	50.0	56.5	48.2	49.4	46.8	46.3	51.2	46.1	49.4	44.9
雇用関連(参考)	46.6	50.0	52.3	48.9	51.1	54.5	53.6	50.0	52.3	48.9	50.0	56.8	51.1	53.4

※D I (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

■調査の概要

調査期間 平成 28 年 2 月 25 日～29 日

回答者数 197/210 名、回答率 93.8%(全国 1,853/2,050 名、90.4%)

以 上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 萱場 喜樹)
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10
TEL : 022-225-1426 FAX : 022-225-0082

<別 紙>

■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「やや良くなっている」

（住関連専門店）…今月は、以前に受注した案件の製品製作、納品、取り付けなどがあり、一気に売上や販売量が計上されている。そのため、通常の月と比べて良くなっている。

（高級レストラン）…今年は降雪量が少なく、年配者の来店が多くみられている。また、法人関係の予約にも恵まれ、例年の2月に比べると来客数、売上共に良い状態である。

（自動車整備業）…年度末を控えて販売は順調に伸びており、前年比 120%となっている。石油製品の価格が下がったため粗利も 20%ほど伸びており、好調である。

（住宅販売会社）…突然のマイナス金利と、消費税率 10%への引上げ前の駆け込み需要が重なり、若い世代の顧客の動きが非常に良い。土地の検索依頼から始まり、戸建て受注の伸びが期待できる状況である。

（建設業）…年度末に向かって大型案件の発注は減少傾向にあるものの、小規模案件を中心に発注は継続されている。

○「変わらない」

（商店街）…マイナス金利導入の関係かどうかは定かではないが、客の購買動向に乱れが見受けられるという店が多い。また、一部の物販店では多少高い価格帯の身の回り品が動いているようであるが、生鮮品販売店、飲食店では購買単価の下落傾向に歯止めがかからない状況である。

（コンビニ）…来客数が前年を上回ることができない。もはや他県からの流入でしか、来客数の増加を図ることができなくなっている。

（乗用車販売店）…消費税増税後の反動減は解消されてきているものの、需要期にもかかわらず新車受注が伸びていない。

（都市型ホテル）…披露宴を予定している客については前年と同様の動きで推移している。しかし、企業の勢いの無さが反映しているのか、一般宴会は若干伸び悩んでいる。その分宿泊がインバウンドの関係で伸びている状況にあり、全体的には横ばいとなっている。

（旅行代理店）…主要商品である関西、首都圏方面の伸びを期待していたが、インバウンドの影響で宿泊施設の確保が困難であり、また、沖縄方面についても伸びていない。海外旅行においても、フランスのテロ以降は伸びが鈍化している状態が続いている。

（美容室）…卒業式シーズンであるが、今は簡単に済ませる人が多いのか、着付けの予約が少ない状況である。

（土石製品製造販売）…原材料費の値上げが続いているため受注価格の値上げを検討したいが、取引先との関係もあり、そう簡単には出来ない状態である。

（電気機械器具製造業）…自動車、電子機器関連の下請の受注は相変わらず好調の様子である。ただし、一部零細企業では受注量が減少しているところも見受けられている。

（金融業）…マイナス金利導入後の為替、債券、株式市場の動きから、個人の投資家は様子見の状況である。

（経営コンサルタント）…株価の乱高下や金融政策の行き詰まり感など、消費意欲を削ぐ環境要因が強く影響している。

（企画業）…見積価格に対する値引き要請が以前よりも厳しくなっている。値引き要請はいまや当たり前となっており、更に先方も予算を低く設定しているため、要請額が厳しさを増している。しかし、現在の競争環境のなかでは受けざるを得ない状況である。

（人材派遣会社）…売上は3か月前と比べて横ばいであるが、慢性的ともいえる登録者不足からWebを含む求人広告掲載料が膨らんでおり、募集コストの上昇から収益が圧迫されている。

○「やや悪くなっている」

- (百貨店) …週末のファミリー客も減少し、更に比較的来店頻度の高い地元顧客の来客数も減少している。また、来店しても購入単価、買上点数共に減少傾向にある。
- (スーパー) …来客数に大きな変動はないが、3か月前と比べて買上点数が2%程度減少している。暖冬の影響で冬物商材が不振であり、春物商材へのカバーができていない状況である。
- (衣料品専門店) …例年と比較しても今年は寒暖の差が極端である。このような気候の変動に客は迷っており、冬物の動きが鈍く、かといって春物も立ち上がりきれっていない状態が続いている。加えて卒業、入学といったモチベーション需要の動きも鈍い。
- (家電量販店) …冷蔵庫、洗濯機などの白物家電は、買換え需要の購入がほとんどであり、新築や引越しの需要は少ない。また、単価も横ばいであり、景気動向の不透明感により客のマインドが冷え込んでいるように見受けられる。
- (ガソリンスタンド) …暖冬の影響で石油製品の販売量が減少しており、前年比10%減となっている。原油価格の下落と需要の減少から販売価格は仕入価格よりも大幅に下落しており、販売量の減少と粗利益の減少というダブルのダメージとなっている。
- (タクシー運転手) …とにかく乗客が少ない。特に最近は病院通いをする年配者がタクシーを敬遠して乗らなくなっている。
- (通信会社) …3月から投入する強力なコンテンツの告知効果が奏功しており、解約者は減少してきているものの、新規客の申込の減少が続いている。セット販売など、同業他社との顧客争奪戦がますます激しくなっている。
- (リフォーム業) …供給が前年実績まで回復しておらず、問い合わせも増えていない。
- (広告代理店) …官公庁において毎年作成されていた年度末案件が、今年は無くなっている。また、一般企業においても、会社案内などのパンフレット類の作成部数が減少している。
- (新聞社[求人広告]) …株価の乱高下や、為替相場のめまぐるしい変動、更にはマイナス金利の導入と、イメージからくるものではあるが、消費マインドの落ち込みが年頭から続いている。そのことは地元求人にも敏感に反映されており、求人数が落ち込んでいる。
- (職業安定所) …今まで上昇を続けていた有効求人倍率は、高い水準を保ちつつも低下傾向にある。また、高い水準であるのは求職者数の減少が要因であるが、求人数自体も減少している。

○「悪くなっている」

- (寝具販売店) …今年の2月は例年になく商品が動かず、売上が落ち込んでいる。
- (一般レストラン) …これほどまでに来客数の少ない2月は経験したことがない。特にディナータイムでは1人の客もいないという日が何日もあり、大変厳しい状態である。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

- (商店街) …現状でも天候の良い日やイベントがある日は来客数の動きは良い。今後の天候次第ではあるが、春に向かって客が動き始めることを期待している。
- (衣料品専門店) …比較的早めに進学が決まり準備を始めている客が多く、予算的に少し余裕があるフレッシュマンが多いように見受けられる。また、少子化となり子供にお金をかける傾向があるなかで、春の商戦において景気は上向きに推移するとみている。
- (観光型旅館) …ゴールデンウィークでは、長期休暇を取れた客は海外などの遠方へ行くのだろうが、今年は飛び石連休のため、短期の国内旅行の需要が高いと見込んでいる。また、休日の分散化が進めば、連休前後についても多少の伸びが期待できる。

(観光名所) …県内に入ってくるインバウンド客は非常に多く、余す所なく見て回っていることで当地域にも訪問している様子である。そのため、来客数、乗船人数の底上げとなり予約も順調に入ってきている。この状況が続けば大変好調に推移するとみている。

(建設業) …年度を跨いだ発注がある。また、新年度になるため、各事業者から一定量の工事発注の可能性を見込んでいる。

(広告業協会) …来月は北海道新幹線の開業、駅ビルの増築オープン、電気料金のオープン化、マンション関係の発売などにより期待が持てる状況であり、景気は多少の回復に向かうとみている。

(人材派遣会社) …来期の採用計画において、中途採用を積極的に行う企業が増えている印象がある。そのため、先行きの状況はやや良くなると見込んでいる。

(新聞社[求人広告]) …東日本大震災から5年目を迎えて一つの区切りと捉えられている。加えて、駅周辺の再開発、北海道新幹線開業などにより、3月は盛り上がっている。この状況が景気に反映できればその後も多少の上向き加減になることが期待できる。

○「変わらない」

(百貨店) …日銀のマイナス金利導入以降、百貨店友の会への入会希望者が明らかに増加している。預貯金の金利減少を懸念しての行動であり、消費者の生活防衛意識が高いことへの表れである。そのため、消費税率10%への引上げまでは景気に変化はないとみている。

(スーパー) …桜の開花予想時期が例年より早まっており、ゴールデンウィークにおける行楽関連の期待感が薄くなっている。そのため、先行きが良くなるような要素は見当たらない。

(酒類専門店) …これから異動シーズンとなって消費に動きが出てくるとみているが、前年以上の動きは期待できない。

(リフォーム業) …消費税率10%への引上げ前の駆け込み需要とみられる問い合わせが増えていない。

(食料品製造業) …3月の北海道新幹線開通後、観光客の流れがどのように変化するかで状況も変わっていく。

(経営コンサルタント) …何よりも消費者が将来に対して安心感を持てるかどうかのポイントである。

(職業安定所) …人手不足が解消されていない業種が多い。また、求人数や事業者数は変わらないものの、1社当たりの求人数が徐々に減少の傾向がみられている。大きな変動ではないが、当面はこのような状況が続くとみている。

○「やや悪くなる」

(家電量販店) …ニュースでは、株価の下落や原油価格の低下などがマイナス要因として報じられていることから、客がやや警戒をしている。また、マイナス金利など先行きの不透明感が客の意識のなかに広まっており、購入マインドが少し弱まっている。

(一般レストラン) …所得が上がるという見込みもあまりなく、社会情勢の不安定、少子高齢化など、いろいろな意味で先行きが明るくなるような要因が見当たらない。

(出版・印刷・同関連産業) …株式市場が低迷していることや貸出金のマイナス金利が導入されるなど不安要素も多く、企業はとてもし上げをできるような状況ではない。個人としても不景気に備えて消費を抑えるようになり、全体的に景気は低迷していくとみている。

(電気機械器具製造業) …新規発注はそれほど多くはなく、先行き是不透明である。消費税率10%への引上げ前の駆け込み需要が入ってきている状況にあるが、その先の急激な落ち込みを恐れている企業が多い。

(輸送業) …一部の荷主から値下げの要求があり、それに対応しなければならない状況である。

(企画業) …広告宣伝の絶対量が減少する見通しであり、競争のなかで少ないパイを取り合うこととなる。そのため、値引き要請の前に低価格の姿勢を示す必要が出てきている。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以上